

『精神障がい者の行動特性を踏まえたヘルプ活動とは』まとめ

概 要

日 時：平成23年2月25日（金）午後1時30分～3時

場 所：守山区社会福祉協議会 研修室

参加者：17名

関係者：常多会長、横山（もりたかホーム）、小野、馬淵（障害者地域生活支援センター）、王子田、杉江（東・守山障害者地域生活支援センター）、金森（保健所）、鈴木（社会福祉協議会） 敬称略

内 容：講義「精神障がい者の行動特性を踏まえたヘルプ活動とは」
精神障がい者への支援は、多くのホームヘルパーが難しさを感じていることを受け、本講義を企画した。

講義では、名古屋市における精神障がい者の現状、行動特性、統合失調症の特徴、ストレス、地域で支援するポイントについて、エピソードを交えたわかりやすい内容だった。

グループワーク

1グループ4人の構成。司会、記録係は関係者が担当。

自己紹介から始まり、講義の感想や自分のケースの紹介などを話し合った。

（参加者）

参加者17名の事業所別内訳は以下のとおり

事業所名	参加人数
ひかり介護	1名
ぬくもり	1名
さんりん舎	1名
あまこだ	1名
介護ステーション Ohana	2名
ファミリー24	6名
介護保険事業所	1名
CHEER	2名
TUTTI	1名
瑞穂区障害者地域生活支援センター	1名

(アンケート集計)

有効回答数 10件 (回答率 58.8%)

※ 次回以降案内の送付を希望される方 12名(積算)

① 今後、どのような内容の研修を受講したいと思いますか。

- ・ 身体介護技術 (オムツ交換、)
- ・ 精神障がいに関する研修
- ・ 事業所内での研修方法
- ・ リフト、車椅子等の使い方

② 本会に期待するもの。

- ・ 事業所により支援方法が異なるため、基本的なマニュアルを作成してほしい。
- ・ 事業所間の連携を進めてほしい。
- ・ 情報交換や解決策を話し合う場づくり
- ・ ヘルパー同士が悩みを話せる場づくり

(グループワークで話し合われたこと)

★Aグループ

(精神に障害のある方の印象)

- ・ 言葉ひとつにとっても気を遣うが、関わることは楽しいと思っている。
- ・ その方が病気を持っているとは知らずにかかわっていたことがある。
- ・ まだ殆どかかわったことがないので、今回学びたい。

(ヘルパーの困りごと・ニーズ)

- ・ ひたすら電話がかかってくる。最初はとにかく丁寧に話を聞くことを続けた。心ない言葉を言われることもあったが、だんだんコツをつかんできた。
- ・ 自分が支援をやめたらこの人はまた放り出されるのではないかと、思っ続けています
- ・ 言うことがコロコロ変わる。
- ・ 忙しいときに少し態度に出てしまうと敏感に反応するので気を遣う。
- ・ 「死にたい」と言われたので「私も死にたい」といったら共感したことに喜んでもらった。
- ・ まずは全部受け止めて、信頼関係が出来てから気になる点を言うようにしている。
- ・ 人同士なので、合う、合わないはあると思う。
- ・ こちらがかかわることで拠り所のひとつになれば良いと思う。

★B グループ

- ・ 精神障がい者の方との実際または心の距離の取り方が難しい。
- ・ “自分のことを訴えにくい” 方の思いをどう受け止めたらいいのかかわらない。
- ・ 障害者自立支援法施行後、グループホームにヘルパーが来ることができなくなり、現場は混乱した。制度が変わるたびに当事者は大変な目にあうことがある。
- ・ 精神障がい者は、日ごと、時間ごとに“感情の波”がある。その波を小さくするサポートをしたい。
- ・ 本人の楽しみとなるようにと思って支援をしたが、最初は楽しみにしていたことが、だんだんと「それをしなければならない」と義務感が出て、楽しみからノルマに変わっていった。新たなこだわりを作る結果となった。
- ・ 何事も型どおりでなければすまない方で、ヘルパーの活動を始終チェックしている。そのため、ヘルパーが疲れ辞めてしまう。

(以上のヘルパーの困りごとへのアドバイス)

- ・ 本人に失敗させてみる。それは気づきのきっかけとなる。そのときに、適切なサポートをすることで信頼関係を築くことができる。
- ・ どのような支援であれ、その支援は本人がしたいことであることが大事。支援者の自己満足ではなく、本人のやりたいを引き出す工夫。“何もしない”という見守りも一つの支援の形。
- ・ ヘルパーが正しいことだと思っても、本人は疲れてしまうことがある。逃げ道を用意しておくことが大事。

★C グループ

- ・ 精神障がいのケースをもっている方が 2 名、まだケースを持ったことがない方が 2 名いた。
- ・ ご家族・ご近所間の小さなトラブルから警察への苦情・訴え等で問題が大きくなることもあった。
- ・ 精神障がいの単身生活者の服薬管理が課題。
- ・ グループワークの中での話を聴いていて、認知症に通じる部分があると感じる。
- ・ ご家族が疎遠になり、ご本人が孤立化してくるケースが見られた。
- ・ ヘルパー業務外と思われる対応（本人からの電話）までせざる終えないことが多い。
- ・ 家事援助の契約だが、それ以外の支援を求められることがある。例えば「電話が壊れたけど何とかして欲しい」

(以上のヘルパーの困りごとへのアドバイス)

- ・ 支援外のニーズについてはヘルパーが話をしてもダメなら、サービス提供責任者や関係性のあるヘルパー、もしくはご家族への相談が必要。一人で抱え込まないで色々な手段を考えてみたり、委ねることも大切。
- ・ 業務外の電話等は事業所に掛かってくるものはある程度受入は必要だが、ヘルパー個人や頻度によって、サービス提供責任者の方がご本人に理解できるように話をすることが大切。
- ・ ご家族との関わりは本人の身元引き受けの意味も含めて大切。まずはその関係性を知り、関係回復についてはサービス調整会議等で区役所・保健所等を巻き込んで良いのではないかな。
- ・ 服薬管理についてはご本人が「大丈夫」とはいつでもある程度の見守り等の支援が必要。

★D グループ

(ヘルパーの困りごと、ニーズ)

- ・ 本人が気に入ったヘルパーだけを希望する。⇒複数日、ヘルパーが入っている場合は曜日によってヘルパーを替えるようにし事業所全体で対応するように心掛けている。
- ・ 複数の事業所が入っている場合、事業所毎に対応のばらつきがあり、対応の統一を図ろうと思っても難しい。⇒本人が出来ることまでヘルパーがやってしまうことがある。
- ・ そもそも認知症や精神障害、人格障害の違いや境界がよく分からない。精神障害者として対応していた方が実は人格障害であったり、というケースも少なからずあるのではないかな。

(利用者の困りごと、ニーズ)

- ・ 本人の状態に波があり、計画通りでは支援が足りない場合がある。また本人に「毎日来てほしい」と言われてもヘルパーがいらないため対応できない。
- ・ 本人の出来ない事を支援するようにしている。本人が出来ることは手を出さず、出来るだけ本人にやってもらうようにしている。

(当日の様子)

